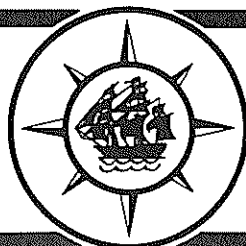


## Operation Raleigh News

Operation  
Raleigh

DENSO

NO. 20

昭和61年(1986) 6月5日(木)  
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会  
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号  
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装株式会社のご協力で制作されたものです。

## ようこそチャールズ皇太子

## 永井委員長・代表青年ら迎賓館で懇談



○写真提供=時事通信社

## ケン玉にニッコリ

ORの提唱者である英国チャールズ皇太子はダイアナ妃を伴われて連休明けの日本を訪問されましたが、5月11日(日)午後3時過ぎから迎賓館朝日の間でOR日本委員会メンバー、日本代表青年ら14名にお会いになり懇談されました。

席上、ゼブ号で大西洋を渡った桃井君には「船酔いしたでしょう？」ニューージーランドへ行く川北君や杉浦

さんには「雨がが多いから気をつけて」などと、声をお掛けになりました。また、川北君がケン玉とダルマ落としを王子さまへのおみやげとしてさしあげると、皇太子はさっそくケン玉に挑戦され見事にクリア。「持って帰り、王子たちのまえでやってみせるよ」とニッコリされました。

懇談の模様について、詳細は2面の牧野ORJC事務局長のレポートをご覧ください。なお、懇談に出席したメンバーはつぎのとおり。

永井 道雄 (ORJC委員長)

田辺 守 (ORJC委員)  
稲生 清 (ORJC委員)  
祖父江東一郎 (ORJC委員)  
牧野 勇治 (ORJC事務局長)  
桃井 和馬 (1984年次代表青年)  
原田 亜紀子 (1984年次代表青年)  
高柳 俊成 (1984年次代表青年)  
高野 孝子 (1985年次代表青年)  
竹内 京子 (1985年次代表青年)  
加宅田 和彦 (1985年次代表青年)  
森本 作也 (1985年次代表青年)  
川北 秀人 (1985年次代表青年)  
杉浦 香代里 (1985年次代表青年)

# ケン玉で緊張ほぐされた皇太子

## チャールズ殿下会見記

ORJC事務局長 牧野 勇 治

### リラックスした なごやかな会見

「I'll try」とおっしゃったかどうか聞こえなかったが、興味深そうにケン玉に手を出された瞬間、殿下を囲んだベンチャラーはワッと湧いた。心配そうに後に従っていた英国大使館員をはじめ、随員からも思わず笑いがもれる。殿下が腰をかかめて右手にもった柄を軽く振られると、玉は見事に皿に乗った。

周囲の拍手に満足気に微笑まれた姿からは、来日以来のハードスケジュールの疲れと緊張が一瞬消えたように見受けられた。——5月11日、オペレーション・ローリー代表とチャールズ皇太子の会見のハイライトは、予想したよりはるかになごやかで、リラックスしたものだ。

### 昨秋9月ロンドンで ご訪日計画を知る

昨年9月事務局の成田君とふたりでロンドンのオペレーション・ローリー本部を日本フェーズの打合せのために訪れたとき、はじめて今年の春にチャールズ皇太子ご夫妻の訪日計画があることを知らされた。まだ日本では誰も話題にしていなかったときであった。

英国チャールズ皇太子ご夫妻の訪日は「ロイヤルフィーバー」「ダイアナ旋風」などとマスコミに取り上げられ、連休明けの日本中がご夫妻のさわやかで、精力的な行動やご発言に湧きました。

迎賓館でのチャールズ殿下とORベンチャラーたちとの会見も新聞やテレビに取材され、報じられました。新聞各紙はつぎのように紹介しています。

〔読売新聞〕皇太子けん玉挑戦、見事……チャールズ皇太子は、開発途

それから8ヵ月、半信半疑の来日は本当に、恐る恐る申し込んだ会見のお願いが聞き届けられようとは、いま思ってもよく実現したものだと思えざるを得ない。

英国大使館にお願いに上ったのは2月14日。まだ公式には何も公表されていない時期であった。「ご夫妻が来日されるそうですが」「そのような新聞記事が出ておりましたね」というような禅問答で交渉がはじまった。とにかくチャンスがあれば、お会いできるようお願いを、とお願いして資料をお渡ししてきたのが効を奏した。

正式に外務省から内示があったのは3月中旬のこと。「くれぐれも事前に知れわたることのないように」の念を押された。恐らく、何百件とあった申し込みのなかからの決定なので、実現しなかった人々への気くばりだったのであろう。

### 日本委員会の活動にも お詳しい殿下

いよいよ当日。2時半すぎに迎賓館の待合室で入室の許可の音がかわかるのを待つ。予定を10分ほど遅れて会見室（朝日の間）に入り、永井委員長、田辺委員を先頭に窓際に一列に並んでお待ちする。

やがて微笑みながら入ってこられた殿下はひとりひとりに握手して、お言葉をかけられながらベンチャラーのほうへ進まれた。さすがパトロンだけあって、日本委員会の活動にもお詳しい。

### 通訳不要の ベンチャラーたち

ベンチャラーには「ゼブ号では船酔いしなかった？」「君の行き先は？」「どんな活動をしたいと思えますか？」などと気さくに問いかけられる。「日本ではバケツのなかのへびをつかむテストはなかったか」との質問には全員爆笑。

日本語に堪能な英国大使館員の手助けもほとんど不要で進行していく会話を見ながら、「これなら海外でも大丈夫だね」と委員の方々も目を細めておられた。

### 苦勞が吹き飛んだ 会見の成功

日本委員会関係者、ベンチャラー全員に会っていただくという当初の計画が実現しなかったことは残念だったが、会見の最後にケン玉に興じられる殿下のリラックスされたお姿に接することができて、今日までの苦勞が吹き飛んでいくように感じた。

### マスコミも注目

## 殿下とORJC会見

上国などでの生活を通じて国際感覚を養うことを目的とした「オペレーション・ローリー」（本部・ロンドン）の参加者と懇談された。京大四年、川北秀人さんが「日本の伝統的なおもちゃです」と、二人の王子に、ケン玉とダルマ落としをプレゼント。皇太子はさっそくケン玉に挑戦し、

玉をピタリと大皿に乗せると出席者から大きな拍手がわいた。

〔朝日新聞〕午後三時過ぎからは、ご自分が後援する「オペレーション・ローリー」日本委員会の冒険旅行の青年九人と迎賓館で歓談された。帆船で旅をした男子学生には「船酔いしたでしょう？」。ニュージーランドへ行く学生には「雨が多いから気をつけて」。

このほか多数の新聞、雑誌、テレビ、ラジオで皇太子殿下とORメンバーとの会見の様子が報じられました。

# 皇太子の印象

## 会見青年たちの感想

5月11日迎賓館でチャールズ皇太子と会ったOR日本代表青年たちから感想が寄せられました。

### ●桃井和馬君 (1984年次第1陣)

それまで数時間少なからず高ぶり続けた私の気持ちも、殿下がドアから顔を見せた瞬間「フウッ」と楽になりました。彼のもつ雰囲気まわりにいる人々に不思議な親しみを与えているからなのでしょう。

### ●高柳俊成君 (1984年次第9陣)

物腰の柔らかい紳士でした。チリでの活動の話、とくに氷河登りの話をしました。ORで友人ができたかというお尋ねに、「はい、それが自分にとって一生の宝です」と答えました。

### ●加宅田和彦君 (1985年次第4陣)

皇太子ご自身のこのORに対する理解と関心を知ることができ、参加することに誇りを感じました。また、冒険という言葉がイギリス人の感覚で理解できたような気がしました。

### ●竹内京子 (1985年次第4陣)

「あ、本もの。テレビで見ると同じだわ」というのが正直な第一印象でした。皇太子は威圧感を感じさせない人柄。暖かいまなざしで私の目を見て話しかけてくださいました。偉い方に謁見したというより、すばらしい人格の方とお会いできて、いい気分になったという感じです。

### ●高野孝子 (1985年次第4陣)

皇太子とは外国語の学び方、私の専攻である政治学のことなどについてお話することができました。この会見はやはり、とても忘れ難い大きなできごとでした。

### ●川北秀人 (1985年次第5陣)

握手のときの親しげな目、話を聞くときの興味ぶかけなまなざし、適切な質問、ゆとりと威厳に満ちた会釈など、人をひきつける魅力は驚くばかりでした。

### ●杉浦香代里 (1985年次第5陣)

もう少し話ができればベターでしたがとにかく一生の思い出です。皇太子はとてもおもしろくて冗談の絶えない方でした。そのお人柄にはとてもひかれました。



OR英国本部から [OR遠征1986年4月~7月] というタイトルのレポート (ニッキー・ポストン執筆) が届きました。各フェイズの今後の計画が述べられているものです。ソロモン、パプアニューギニア、オーストラリア北部 (アーネムランド) での活動内容は本紙既報のとおりですので割愛しますが、SWR号とゼブ号については新情報ですので紹介しましょう。

なお、この期間ORの現地本部はオーストラリアのクィーンズランド州ケアーンズに置かれます。ケアーンズはグレートバリアリーフに近い街です。

### ■SWR号

SWR号は5月21日チリのプエルトモントを出港し、4ヵ月の太平洋科学調査航海に出ました。航海予定はロビンソン・クルーソー島を含むファン・フェルナンデス諸島、イースター島、ピトケアン島、ヘンダーソン島、クック諸島、西サモア諸島、トンガ諸島、フィジーなど南太平洋を経て、ニュージーランドへ向かいます。南太平洋諸島での科学調査内容はこれらの島々へ初めて渡った人類はアメリカ側からなのか、アジア側からなのかを調べることなどです。

イースター島では巨大石像モアイ

がどのようにして運ばれたかを研究し、シュロの丸太によるローラーという仮説を実証するための実験も予定されています。また、ヘンダーソン島ではふたりの植物学者とともに島特有の植物データを集める作業をします。その他の火山島ではカタツムリの異常繁殖への対策を実施します。

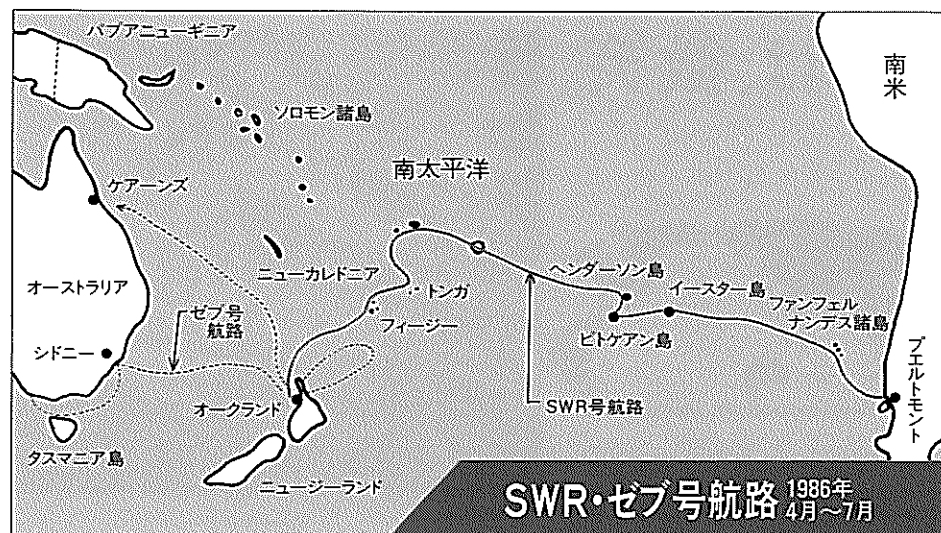
SWR号では研究調査のほか、南太平洋の島々でのダイビングや島の人々とのふれあい、その島の伝統、文化を知ること活動計画に入っています。

### ■ゼブ号

昨年12月にシドニーに入港して以来帆船ゼブ号はオーストラリアにおけるOR活動の先乗り部隊として多くの注目を集めています。

ゼブ号は主にオーストラリア南部のアデレードを基地としてナッツ群島やセドナ島で植物学調査の活動を続けていました。2月末には1867年ウエークフィールド港に沈んだザノニ号の潜水調査を実施しました。

この後ゼブ号はシドニーでベンチャーを交代させ、5月中旬にニュージーランドに向かい、本年後半に展開されるニュージーランド・フェイズのPR活動を行ないます。航海はオークランドを訪問した後、ホワイト島での鳥類学プロジェクトを実施します。その後、ベイ諸島や南太平洋の島々へクルージングし、ベンチャーの航海訓練を行ないます。さらに、オーストラリアのケアーンズに戻り、ベンチャーを交代させ、9月にはグレートバリアリーフで展開されるダイビングのサポート船として活躍する予定です。



# 日本代表派遣青年のページ

5月7日正午成田空港発バリ島経由で5月9日ダーウィン（オーストラリア北部の街）に到着した福井健君と金田千寿さんから、ORJC事務局に第1報が届きましたのでご紹介いたします。

## 楽しい自然の中の生活

〔福井君からのたより〕 やっと環境にも順応してきました。こちらは冬とはいうものの、35℃以上の気温が続いています。毎日がとても忙しく充実していると思っています。きょう（5月12日）はクリスマス・クリークに移ってキャンプの用意をしました。トイレの穴掘り（6フィート）はかなりキツイ作業でした。でも上空を50cmほどもあるオウムの群れが飛ぶ姿を仰ぎ見ていると、何ともいえず、自然のなかの解放感に満ちてきて何も苦になりません。明日からの本格的な冒険が楽しみです。

## 地平線覆う美しい夕陽

〔金田さんからのたより〕 私と福井君の現在（5月16日）のプロジェクトはクリスマス・クリークを拠点とした発掘調査です。ものすごく暑いけれど湿度がそんなに高くないのが救いです。朝晩はけっこう冷え込みます。キャンプ生活は電気もあり、石油コンロや冷蔵庫まであり、ビー

ルやジュースも飲めるといった具合で、かなり文明に浸されています。蚊には結構刺されていますが、4日おきにマラリア予防剤を飲んでいきます。水も不自由していません。水をきれいにする錠剤もここではまったく必要ありません。

私たちのフェイズでサバイバルなのはドライスデール川沿いを下るプロジェクトだということです。このプロジェクトは食料も限られ、重い荷物を背負って何マイルも歩くとい

うものです。しかしこれ以外の7つのプロジェクトはよく計画が練られみんなが楽しく参加できるよう工夫されています。私たちはこの次にはカカドゥ国立公園に行き、さらにグレゴリーに移ります。それぞれ3週間の予定です。とにかく思っていたよりずっと条件がよく、気抜けしているくらいです。時間もふんだんに使えます。たとえば3食の用意で一日が終わってしまうといった心配です。

時間の流れがよどんでいるような感じ。とにかく国は広い。サンセットが地平線全体を覆って、ものすごく美しい。

## '86参加青年募集 新聞・雑誌で紹介

ORの参加青年募集活動期間中に19紙誌で26回にわたってORの紹介や募集要項が掲載されました。とくに信濃毎日新聞の「金田千寿さんインタビュー」、フクニチスポーツ、北海道新聞、河北新報、四国新聞、徳島新聞の「平野裕加里さん・パナマ体験紀行」がとくに目を引きました。●募集紹介された新聞・雑誌（順不同）中部読売新聞、名古屋タイムズ、信濃毎日新聞、河北新報、徳島新聞、福島民報、熊本日日新聞、大分合同新聞、静岡新聞、フクニチスポーツ、北海道新聞、福島民友新聞、高知新聞、山陰中央新報、四国新聞、毎日

新聞、日本経済新聞、週刊大衆、女性自身、舵

## 参加青年募集締め切る

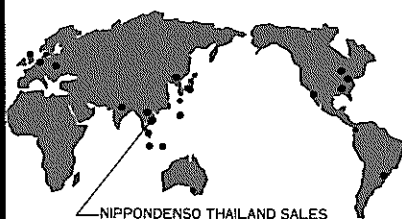
1986年次OR日本代表派遣青年の募集活動は5月31日で締め切られました。5月27日時点での事務局集計によると募集要項請求者総数は、2,896名に達しています。昨年も締め切り間際に応募が殺到し、事務局はその対応にうれしい悲鳴をあげていましたが、ことしも同じような現象が起きているもようで、応募者数の正確な最終集計は次号に発表することになりそうです。

なお、第1次合格者は6月20日に発表される予定で、7月6日東京、13日大阪での体力・英語筆記テストに臨みます。

デンソーワールドワイドオペレーションNo.9

タイ

### まずは、微笑。



タイは微笑(はほえみ)の国である、という言葉があります。街中のポスターには微笑のモデルが多く、人々は旅行者を微笑で迎えてくれるそうです。〈ニッポンデンソータイランドセールス〉は、工場生産された各種製品の販売とサービスを担当する現地法人。人との交流を大切にするこのデンソーマンたちも、まずは微笑からスタート。郷に入っては郷に従えの第一歩なのです。

NIPPONDENSO THAILAND SALES CO.,LTD.  
所在地：2122 New Petchburi Road,  
Greater Bangkok, Thailand  
売上高：892万ドル(21億4,100万円)  
従業員数：61人 (1986年1月現在)



日本電装株式会社 〒448 刈谷市昭和町1-1 電話(0565)22-3311